

## NCD を用いた Occult breast cancer の手術治療動向と乳房手術検体での原発巣の同定についての検討

寺田満雄（名古屋市立大学 乳腺外科）

### 【背景】

Occult breast cancer (OBC) は、原発不明癌に分類され、OBC に対する適切な治療法は未だ議論のあるところである。本研究は、日本乳がん登録のデータベースを用いて、臨床的 OBC (cT0N+) 患者における手術治療の変遷と乳房手術を受けた場合の原発巣の同定率を明らかにすることを目的としたものである。

### 【方法】

2010 年から 2018 年の間に登録された cT0N+ の OBC 患者を対象とした。診断期間を基準に、OBC 患者を 2010～2014 年と 2015～2018 年の 2 群に分けた。治療法の変遷と腫瘍の臨床的特徴を調査した。乳房手術後、病理学的に原発巣を確認する頻度、腫瘍の大きさを評価した。

### 【結果】

登録された 687,468 人の患者のうち、148 人の cT0N+患者を確認し、年齢の中央値は 61 歳であった。これらの患者のうち、64.2% (n=95) が乳房手術を受けた (2010～2014 年：79.1%, 2015～2018 年：50.0%)。腋窩リンパ節郭清は 92.6% (n=137, 2010-2014:91.6%、2015-2018:93.4%) で実施された。切除した乳房の腫瘍径は 0～7.0cm (中央値: 0cm, 2010 年～2014 年 0-7.0cm [中央値: 0cm]、2015-2018: 0～6.2cm [中央値: 0cm]) であった。乳房手術を受けた場合の原発巣の病理学的同定率は 41.1% (n=39, 2010～2014 年:40.4%, 2015～2018 年:42.1%) であった。

### 【結論】

cT0N+に対する乳房手術を実施する頻度は、2010 年から 2018 年にかけて減少した。原発巣の同定率が高いにもかかわらず、同定されたほとんどの腫瘍の腫瘍径は小さく、2010 年以降、同定率や浸潤径に大きな変化はなかった。